

9章 グループ学習

組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）において、グループで協働する場面は多い。そこで、グループ学習に求められる姿勢と意義を確認し、さらにブレインストーミングで用いる手法の一つを学ぶ。また、題材を絞ってグループ学習を実践する。

ねらい

- 「スタンフォード大学の8つのルール」によってグループ学習に求められる姿勢を学ぶ。
- 実践を通じてグループの話し合いを活性化するコツや姿勢について学ぶ。
- ブレインストーミングで最も一般的な手法である「KJ法」を実際に体験しながら、コミュニケーション能力について考える。

準備

- クラスを6つのグループに分けておく。各グループで進行役を1名決めておく。
- それぞれのグループに75 mm×100 mmのポスト・イット（製品番号6571-K20）を100枚配布しておく。模造紙も1枚配布しておく。

1 ブレインストーミングで心がけること

ブレインストーミングとは、グループで新しい発想や視点を発見していくために最適な技法である。固定観念をかき混ぜ、複数の人の視点や知識をつなぎあわせることで、一人では考えつかないようなアイデアや視点を発見できる。これについて、スタンフォード大学では8つのルールを設けている。

【課題1】

（15分）

ねらい

※先生はタイムキーパー役をお願いします

- グループ学習やグループでの話し合いに求められる姿勢を学ぶ。

内容

- 下記の「スタンフォード大学の8つのルール」の意味を理解し、その英語表現に口慣れる。

ワーク1 （10分）

- ・①～⑧のルールについて、（ ）内の日本語訳と下に書かれた説明を見ながら、実際に声を出して発音してみる。
- ・①、④、⑥の日本語訳を自分で考えて、10字以内で（ ）内に書く。

（解答例は最後のページにあるので各自照らし合わせてください）

ワーク2 （5分）

- ・グループのひとりが日本語訳を言い、他の人はテキストを見ないで英語表現してみる。
（その作業によって8つのルールの意味するところを理解し、ルールを英語表現のまま暗唱して、今後のグループ学習や話し合いで停滞したり横道に逸れたりした場合はルールを口ずさむことで注意を喚起できるようにする。）

スタンフォード大学の8つのルール

① **Defer Judgement** (=)

その場では否定的なコメントをしない、ということである。これは、ブレインストーミングの基本で、否定せずにアイデアを出すことで、発想をのびのびと自由に広げていくことが可能となる。

② **Go for volume** (=)

10 のアイデアより、100 のアイデアのなかに、よりよいアイデアが眠っている可能性が高い。アイデアは、できるだけたくさんあったほうがよいということである。

③ **One Conversation at a time** (=)

議論が盛り上がってくると、みんなが一斉に話しはじめてしまうことがある。そうすると、一人の発言にフォーカスできなくなり、せっかくのアイデアを共有できなくなってしまうことがある。

④ **Be Visual** (=)

出たアイデアは、残らず書き留めるようにする。その際、一人ひとりが手元でメモをとるのではなく、全員が見られるように、付箋紙やホワイトボードを使って、書き出していくことが大切である。視覚化することで、出てきたアイデア全てを記録することができるとともに、また、思考が煮詰まったとき、これまでに出的アイデアを遡ることで、新たなアイデアのヒントを探ることができるようになる。

⑤ **Headline your Idea** (=)

自分のアイデアを説明するのに、長々と話す人がいるが、アイデアはできるだけ一言で表現することが望ましい。簡潔に伝えることで、一人が演説するのではなく、他の人の発言の機会を増やすことができるようになる。次の人にどんどんバトンを渡していくことが大切である。

⑥ **Build on the Ideas of others** (=)

人間は、他の人がよいアイデアを出すと、負けじともっと良いアイデアを出そうとしてしまうものである。こうした気負いは、かえって自由なアイデアが出てくることを規制してしまうことが多い。他の人のアイデアに一言つけくわえるだけでもOKという柔らかな心構えが重要である。

⑦ **Stay on topic** (=)

ブレインストーミングがうまく進み始めると、楽しく盛り上がることができるが、一方で楽しすぎることで、つい雑談になったりすることがある。ブレインストーミング中は、議題に集中することが大切である。そのためには、模造紙やホワイトボードに議題を書き出しておく、脱線しそうになっても、戻りやすくなる。

⑧ **Encourage Wild Ideas** (=)

発想の飛躍したアイデアは、もしかしたら本当に重要な発見かもしれない。それ以上に、ワイルドなアイデアが多く出て、メンバーがそれを奨励できるような雰囲気が生まれると、さらに多くのアイデアが出やすくなる。ワイルドなアイデアを奨励することは、クリエイティブな発想の原動力になる。

2、グループで話し合う

「スタンフォード大学の8つのルール」を実際の場面で応用してみよう。

【課題2】 (35分)

ねらい ※先生はタイムキーパー役と、**ワーク3**の進行役をお願いします

○グループ学習やグループでの話し合いに求められるコツや姿勢を学ぶ。

内容

○実際のテーマでグループの話し合いを行い、どのような発言が話し合いを活性化させてグループに貢献できるか、ふり返って考える。

ワーク1 グループで話し合う。話し合いながら発言の要点をメモする。 (20分)

テーマ：「母親がダイエットをしてはすぐにあきらめてしまっている。そこで、ダイエットを継続させるアドバイスをしたい。どのようなアドバイスがいいか。」

(注) ダイエット＝健康上または美容上、肥満を防ぐために食事を制限すること。転じて、何らかの方法で減量すること。

発言者	発言内容メモ

--	--

ワーク 2 発言メモをふり返って見て、誰の発言が最も有効だったか、グループで話し合う。また、その理由も考える。決まったら、上記の発言メモに書き添える。 (5分)

ワーク 3 各グループで選んだ最も有効だった発言をそれぞれ発表する。発表者は、発言者本人でもグループの進行役でもよい。 (10分)

参考になった発言内容や、発言のコツ・姿勢をメモする

【前半終了】

~~~~~

## 4 コミュニケーション能力とは何か ～KJ法でブレインストーミング

「コミュニケーション能力」は重要だとされているが、そもそものような能力を指すのだろうか。それが本当に理解できればよりよく身につくはずだ。KJ法を使って「コミュニケーション能力をどのように身に付けるか」を考察してみよう。まずは、以下の(1)に目を通したら(2)を読み、「KJ法」の手順を理解しよう。

【各自(1)と(2)を読む 10分】

※先生はタイムキーパー役をお願いします

### (1) コミュニケーション能力の重要性

経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によると、全国の企業が採用選考時に重視する要素は、10年連続で「コミュニケーション能力」が第1位でした。

25項目から5つ回答する設問では、「コミュニケーション能力」について、「主体性」、「協調性」、「チャレンジ精神」、「誠実性」の順に続き、上位5項目には変化がありませんでした。

近年、「コミュニケーション能力」と「主体性」の比重がますます高まっており、企業が採用選考にあたって、より重視していることがうかがえます。

#### 新入社員選考に当たって特に重視した点（5つ選択）

経団連の調査結果による

|     |             |       |      |          |       |
|-----|-------------|-------|------|----------|-------|
| 第1位 | コミュニケーション能力 | 80.2% | 第2位  | 主体性      | 62.1% |
| 第3位 | 協調性         | 55.4% | 第4位  | チャレンジ精神  | 50.2% |
| 第5位 | 誠実性         | 36.3% | 第6位  | 責任感      | 26.9% |
| 第7位 | 論理性         | 25.6% | 第8位  | 潜在的可能性   | 23.8% |
| 第9位 | 専門性         | 21.7% | 第10位 | 職業観・勤労意識 | 16.3% |

### (2) KJ法（ブレインストーミングの手法）

KJ法とは、1つのテーマに対してブレインストーミング等で出されたアイディア1つ1つをそれぞれ1枚のカード（用紙）に書き、それを並べてみて、内容ごとにグループ化して整序することによって、論理構造を明らかにしていくための手法である。

KJ法という呼び名は、これを考案した文化人類学者、川喜田二郎氏のアルファベット頭文字からとられている。

さあ、思いっきり、自由に発想してみよう。こんな考えは笑われるかな、と自己規制せず、ふと思いついたことをどんどん出そう。「スタンフォード大学の8つのルール」を実践してみよう。

**手順1**：提示されたテーマ（今回は「コミュニケーション能力をどのように身に付けるか」）に対して、思い浮かぶことをすべて、まずは個人個人で用紙に書き抜いてみる。コミュニケーション能力の定義でも構成要素でも、あるいは、それによってもたらされるメリットでも、ふと思いついた場面やコミュニケーション能力の付け方でも...どんなことも、1つの思い付きを1枚の用紙に記入する。あまり長々と書かず、短文もしくは語句にまとめる。

**手順2**：机を寄せて広がりをつくって模造紙を載せ、書いた用紙をばらばらに広げてみる。

**手順3**：用紙に記載された事柄を眺めながら、関連性のある用紙を重ねていく。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表した記述の用紙を「代表」として一番上に載せる。

1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしないで、その多様性を大切にしたい。

**手順4**：小グループにまとめた用紙の一番上の「代表」同士を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめる。さらにそれらを大グループにまとめたら、グループ化作業は終了である。

**手順5**：ここからいよいよ論理的整序の段階に入る。グループ間に論理的な関連性ができるよう、大グループの用紙の束を並べ替える。これを「空間配置」と呼ぶ。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツである。

**手順6**：用紙で作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップである。その際、グループ間の関連の内容を示す記号などを使って、空間配置の論理連絡が分かるようにするとよい。

グループで課題研究のテーマを考えたりするのにきわめて有効である。

また、K J法は個人でも使える方法である。頭の中だけで考えていると堂々巡りしてしまう場合があるが、文字として書いてアイディアを空間配置することによって、自分でも気づかなかった論理構造を視覚化してみることが可能になる。そして、その論理構造によって、さらに新たなアイディアが引き出されてくることも多いはずだ。

アイディアの空間配置を書き写して仲間に見せるのも有効だ。自分の論理構造の不足した部分に気づいて補ってくれることが期待できる。

### 【課題3】

(30分)

ねらい

※先生はタイムキーパー役をお願いします

○K J法を習得する。

**ワーク3** の終わりに解答例を読み上げてください

内容

○グループでK J法を使ってさまざまな角度から「コミュニケーション能力」を考察する。

(コミュニケーション能力のさまざまな側面が理解できれば、今後、この能力を各自身につけていくのに役立つはずだ)

準備

○それぞれのグループに 75 mm×100 mmのポスト・イット（製品番号 6571-K20）を 100 枚配布しておく。模造紙も 1 枚配布しておく。

○机をつけて向かい合う。

**ワーク1** (10分)

各自、「コミュニケーション能力をどのように身に付けるか？」と聞いて思いつく事柄（短文もしくは語句）を、1つごとに1枚の用紙に書き記し、できる限り多く書き記す。

**ワーク2** (10分)

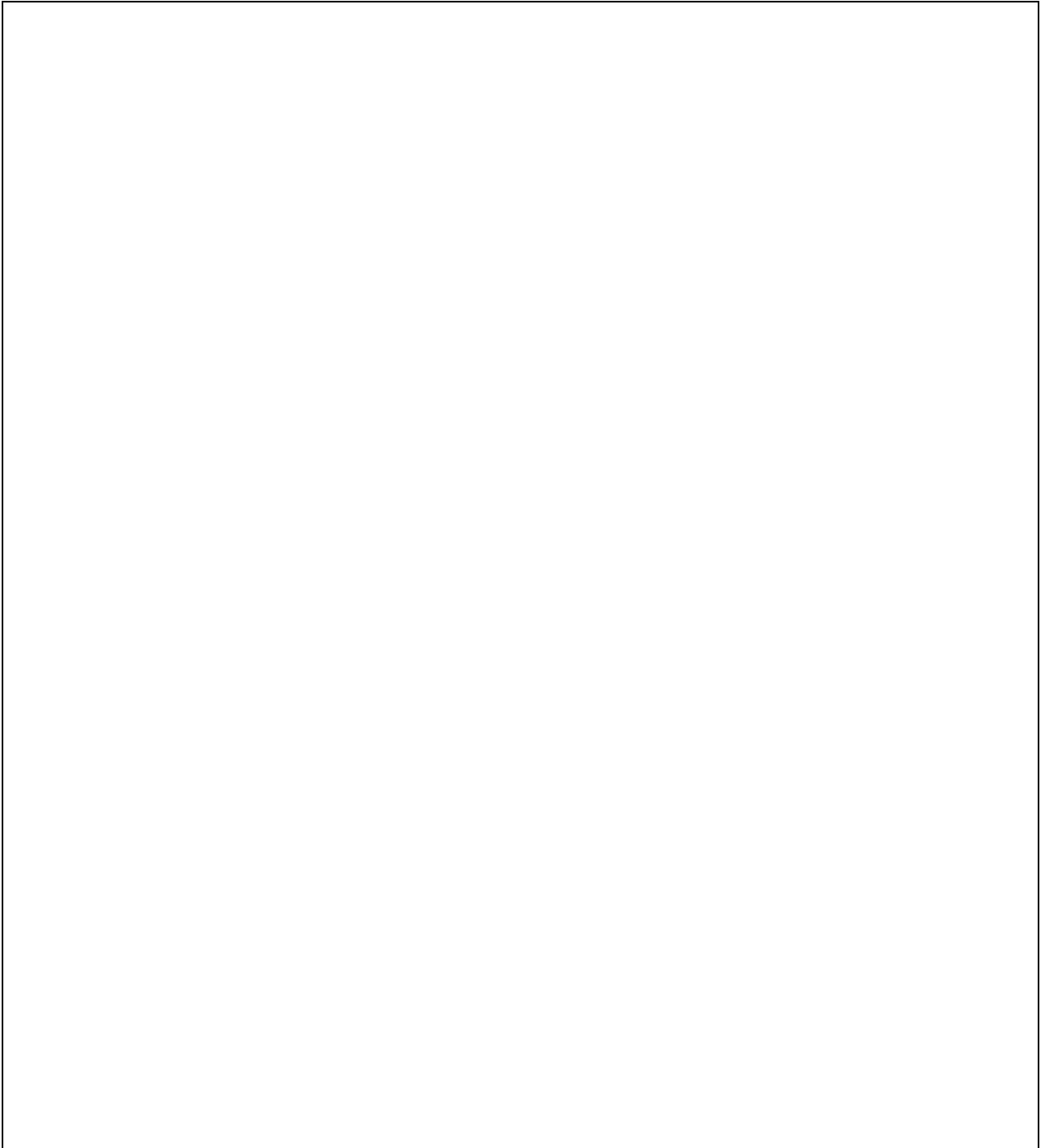
用紙を上記(2)「K J法（ブレインストーミングの手法）」の**手順2**～**手順6**に従って並べる。

ワーク 3 (10分)

手順 6 に従って空間配置を書き取る。終わりに、解答例を担当の先生から聞く。

【空間配置図】

**コミュニケーション能力をどのように身に付けるか**



※解答例と異なる角度からの優れた考察があれば、クラスに紹介しよう。

振り返り

〈リフレクションシートの記入及び回収〉

## グループ学習 リフレクションシート

|   |  |   |  |    |  |    |  |
|---|--|---|--|----|--|----|--|
| 年 |  | 組 |  | 番号 |  | 氏名 |  |
|---|--|---|--|----|--|----|--|

1 日時： \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 ( ) \_\_\_\_\_校時

2 振り返り

Q 1 : スタンフォード大の8つのルールのうちで思い出せるものを書いてください。

|  |
|--|
|  |
|--|

Q 2 : 「K J法」とはどのような技法ですか。それを知らない人に説明するように、わかりやすく簡潔にまとめなさい。

|  |
|--|
|  |
|--|

以下、該当する番号のマークを塗りつぶしてください。

|                                                                           |   |   |   |  |  |   |
|---------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--|--|---|
| Q3 グループでKJ法を実践したときに、あなたはどのように関わりましたか。<br>①積極的にできた ②まあまあ取り組めた ③うまく参加できなかった | ① | ② | ③ |  |  | ● |
| Q4 今回の授業の難易度はどうでしたか。<br>①易しかった ②ちょうど良かった ③難しかった                           | ① | ② | ③ |  |  | ● |
| Q5 今回の授業の時間設定はどうでしたか。<br>①時間が余ってしまった ②ちょうどよかった ③時間が足りなかった                 | ① | ② | ③ |  |  | ● |

● ● ● ● ● ■



# 教師用資料 9章 グループ学習【授業デザイン】

## 今回の授業の位置づけ

○探究活動（課題設定→情報収集→分析と整理→まとめ・表現）において、グループで協働する場面は多い。そこで、グループ学習に求められる姿勢と意義を確認し、さらにブレインストーミングで用いる手法の一つを学ぶ。また、題材を絞ってグループ学習を実践する。

## ねらい

- 「スタンフォード大学の8つのルール」によってグループ学習に求められる姿勢を学ぶ。
- 実践を通じてグループの話し合いを活性化するコツや姿勢について学ぶ。
- ブレインストーミングで最も一般的な手法である「KJ法」を実際に体験しながら、コミュニケーション能力について考える。

※ クラスを6つのグループに分けてください。

※ それぞれのグループに 75mm×100mmのポスト・イット（製品番号 6571-K20）を 100 枚配布してください。模造紙も 1 枚配布してください。

| 時間                                                                                   | 内容・留意点                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【課題1】</b><br>15分<br><b>ワーク1</b><br>10分<br><b>ワーク2</b><br>5分                       | スタンフォード大の8つのルールの声出し、①、④、⑥の日本語訳補充、暗唱<br><br>※「テキストの1ページ・2ページを、ワークの指示どおりに、グループで遠慮せずに声を出してやってください。」と指示してください。                                                                                                                                                                     |
| <b>【課題2】</b><br>35分<br><b>ワーク1</b><br>20分<br><b>ワーク2</b><br>5分<br><b>ワーク3</b><br>10分 | グループ学習のコツや姿勢の理解<br><br>※ <b>ワーク1</b> ～ <b>ワーク3</b> のタイムキーパー（始めと終わりの指示）をしてください。<br>※ <b>ワーク3</b> の進行役をお願いします。<br><br><p style="text-align: right;">【前半終了】</p>                                                                                                                   |
| <b>【課題3】</b><br>40分<br>各自読み<br>10分<br><br><b>ワーク1</b><br>10分<br><b>ワーク2</b>          | 「コミュニケーション能力を身に付けるには」というテーマでKJ法を実践する<br><br>※「テキストの5ページ、6ページを各自10分間で黙読して、内容を理解してください。このあと、KJ法を実際に行うので、しっかりと内容把握に努めてください。」と指示してください。<br><br>※ <b>ワーク1</b> ～ <b>ワーク3</b> のタイムキーパー（始めと終わりの指示）をしてください。<br>※ <b>ワーク3</b> (10分)の終了3分前になったら解答例を紹介してください。（そのまま読んでも、先生方のコメントに置き換えても可です） |

|      |                |
|------|----------------|
| 10分  |                |
| ワーク3 |                |
| 10分  |                |
| 振り返り | リフレクションシートに記入  |
| 10分  | ※シートの回収をお願いします |

解答例

【課題 1】 ワーク 1

- ① Defer Judgement （＝判断は後回しにしよう！）
- ② Go for volume （＝ 数を出せ、質より量！）
- ③ One Conversation at a time （＝ 一度に話すのは一人！）
- ④ Be Visual （＝視覚化しよう！）
- ⑤ Headline your Idea （＝ アイデアは一言で！）
- ⑥ Build on the Ideas of others （＝他のアイデアに乗ろう！）
- ⑦ Stay on topic （＝ 議題に集中しよう！）
- ⑧ Encourage Wild Ideas （＝ ワイルドなアイデアを奨励しよう！）

## 担当の先生へ

### 以下の解答例をご紹介します。

（他にも盛り込むべき内容がありましたら、よろしくお願いします。）

【課題 3】 「コミュニケーション能力をどのように身に付けるか？」 解答例

ワーク 3

- 伝達は発信と受信から成るので、発信（話し上手）を目指すだけでなく、受信能力を伸ばす（聞き上手になる）。
- 伝達は言語だけではなく、非言語部分（＝ノンバーバル・コミュニケーション）も意識する。例えば、うなずく・微笑む等のしぐさをとり入れる。  
※逆に、腕や脚を組んだり身体を斜めにして応対したりするのは拒絶の表示になりかねないので、避ける。
- 相手のさまざまな話題についていける多方面への関心や素養を身に付ける。そのために、ニュースで時事問題を追ったり、読書を習慣化したりする。
- 相手もしくはグループ内でさまざまな「共有化」を図る。情報の共有、気持ちの共有、時空間や機会（食事、イベント等）の共有、等。  
※コミュニケーションの語源「コミュニカチオ」は「共有（分かち合い）」という意味です
- 相手のちょっとしたしぐさや表情から気持ちを察することができるように、日頃から観察能力を養う。
- 挨拶、礼儀作法、相手への敬いの気持ちが大前提である。
- グローバル化が進んだ現在、外国語の力と異文化に対する理解力がコミュニケーション力の重要な要素になる。